

第131号

こんにちは

みささ議会です

令和4(2022)年

10月号

主な内容

- 9月定例会・一般会計決算を審査… 2～4
- 常任委員会で慎重審査 …… 5～6
- 議員5人が一般質問 …… 7～12
- 議案の賛否 …… 13
- 大好きみささ町 …… 14

できたよ、組体操

(賀茂保育園運動会)

一般会計決算審査特別委員会

9月12日に一般会計決算審査特別委員会（遠藤勝太郎委員長）を開催しました。この委員会は5名の委員で構成され、総務教育・産業民生常任委員会で審査した一般会計決算の内容を、さらに細かく審査するものです。その結果、原案のとおり認定すべきものと決定しました。

令和3年度一般会計決算を認定

保育所費

- 問 みささこども園は、現在直営による運営を継続しているが、今後、指定管理者による管理運営を再検討の予定はあるか。竹田保育園は、保護者・地域への説明会で令和5年度末閉園の話もあったが、本当にその時期に閉園・統合するのか。
- 答 みささこども園は現体制で運営を続け、現状を的確に把握し、町として最善の保育ができるよう検討していく。竹田保育園の閉園時期は決定しているものではない。保護者や地域の方と協議し、理解を得ながら一定の方向性を決めていきたい。

消防団活動費

- 問 近年、町民対象の避難訓練を実施していない。大規模な自然災害が増える中、必要なことではないのか。AEDの講習もなぜ実施しないのか。また、消防団の活動計画には、避難訓練・AED講習会の実施はないのか。
- 答 他町の総合訓練等を参考に地域単位での避難訓練の実施を検討したい。AED講習会は年間2集落程度に留まっているので、定期的に周知を図ってきたい。消防団の運営方針では各集落で講習を行う方針だったが、コロナ禍により動きが鈍化してしまった。

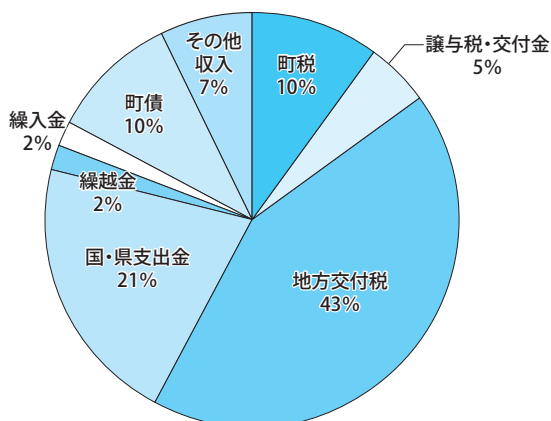
危険家屋対策事業

- 問 町道に面し、歩行者の多い場所に位置する旅館等の大きな危険家屋の対応が進んでいない。台風のような強風時には、近隣住民は不安を感じている。住民への実害が発生する前に、早急な対応が必要ではないか。
- 答 廃業した旅館の全体的な解体は、なかなか対応が難しい。状況把握に努めて、できるところから進めたい。なお、通行人の安全を守る対策として、落下防止柵等の設置は行っていきたい。

保健体育総務費

- 問 中国大会・全国大会に出場する児童や生徒の参加助成金あまりにも少ないのではないかと。町として、子どもたちの活躍に対してもっと支援すべきではないか。懸垂幕の掲示等による支援も必要ではないか。
- 答 参加助成金について、中部市町の状況を確認したが、他市町と比べても三朝町は低い水準ではない。懸垂幕等の設置は中学校ではしているが、スポーツ少年団は特にしていない。町報や表彰を通して、子どもたちの1年の活動成果を町民へ周知している。大会出場前の応援方法については今後検討する。

【歳入】 60億4,850万円



歳入内訳	(万円)
町税	61,642
譲与税・交付金	28,918
地方交付税	259,786
国・県支出金	128,484
繰越金	12,958
繰入金	13,611
町債	59,450
その他収入	40,001
計	604,850



学校給食

調理センター一般経費

- 問 学校給食の個人負担無償化の取り組みを、県内では大山町、智頭町等で既に実施している。少子化が進む中で、子育て支援の一環として給食費の無償化に取り組んではどうか。
- 答 給食費は全国的な金額と同程度であり、無償化の検討はするが、行う予定はない。低所得者の児童・生徒について、必要な措置は実施している。子育て支援全体で何が必要か、効果的な施策を考えたい。

バス運行対策費補助金、町有償運送運行事業

- 問 町有償運送運行事業を開始して概ね1年が経過したが、バス路線への補助と両事業を併せて行うことが町の財政的な負担軽減になっているのか。利用実績や運行上での利用者からの要望・問題点はどのようなものか。
- 答 財政的な負担等の検証は1年が経過していないため、もう少し時間がかかる。推定は、コロナ等の影響はあるが、30数万円の財政負担軽減になっている。要望・問題点は、ルート変更等の要望があり、可能なものから改善を図っていききたい。

中部ふるさと広域連合負担金（管理費）

- 問 現在、婚活事業は広域連合に委託し、中部1市4町合同で行っている。全体での実績は低く、町内者の実績はないと聞いている。人口対策の一環として、町単独の結婚相談員の配置など、婚活事業を再検討すべきではないか。
- 答 定期的に婚活イベントを行ったが、町内者のカップルはできなかった。今後も定期的なイベントの実施や情報発信を続けていく。令和4年度は、マッチング登録料の半額を支援している。結婚相談員等を検討し、町独自の取り組みでバックアップを図る。

キュリー祭開催補助金

- 問 大規模なしゃんしゃん祭等が実施されている中、コロナ感染症を理由に、キュリー祭は3年連続中止となった。コロナ禍に関係なく、実施できるイベントを計画すべきではないか。
- 答 今後は、他町のイベントを参考にコロナ禍に関係なく、イベントを実施できるように検討を重ねていく。

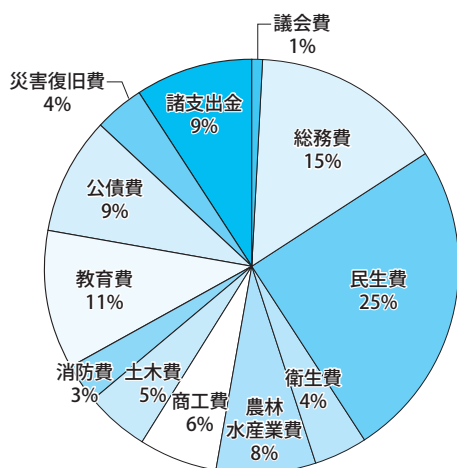
キュリー広場再整備事業

- 問 キュリー広場を2年かけて再整備し、付近の土地も購入も行っている。今後、キュリー広場をどのように活用するのか。ブランナールの施設と併せての管理委託等を考えているか。
- 答 キュリー広場をキュリー祭等賑わい創出の場として活用することを、関係者と協議していききたい。ブランナールと併せた管理委託の話は今のところ考えていない。



キュリー広場

【歳出】 58億6,099万円



歳出内訳	(万円)
議会費	7,792
総務費	86,386
民生費	145,636
衛生費	26,067
農林水産業費	47,346
商工費	34,035
土木費	29,655
消防費	15,874
教育費	61,652
公債費	53,289
災害復旧費	24,416
諸支出金	53,951
計	586,099

ふるさと健康むら管理費

問 ふるさと健康むらの管理が不十分ではないか。特にトイレの便器の汚れやクモの巣等があり、利用に堪えないとの声がある。現在の管理状況、トイレの掃除等が適切に行われていない原因、その対応をどのように考えているか。

答 トイレの苦情は聞いており、適正な清掃の実施を指示した。2日に1回の清掃で毎日ではないが、多くの方が利用された後は心がけて清掃するようにしている。利用者の協力等も考えながら、適正な清掃管理を検討していきたい。

移住定住促進事業

問 相談件数に比べて移住者が少ないのは、相談対応が不十分ではないかと懸念する。移住が進まない要因は何なのか。他町で行われているお試し住宅を取り入れるなど、移住者の呼び入れに工夫が必要ではないか。

答 相談者に寄り添い丁寧な対応を心がけ、移住者の増加に努めたい。空き家バンクの登録、県外での移住相談会などで町の魅力をPRしていきたい。お試し住宅は町内の湯治旅館との調整や県内での状況を確認しながら考えを整理していきたい。

多目的駐車場管理費、環境にやさしい観光インフラ整備事業

問 三朝温泉多目的駐車場敷地内に電気自動車用急速充電器を整備したが、導入の効果はあるか。急速充電器の設置をPRすべきではないか。駐車場利用者が増加しているが、その要因や更なる利用促進に向けた取り組みを考えているか。

答 電気自動車の利用者は、急速充電器の設置が訪問先決定時に重要なポイントになる。観光協会等と連携し、情報発信に努めたい。イベントや飲食店の継続した取り組みの成果はある。今後も周遊に繋がる取り組みを計画していきたい。



電気自動車用急速充電器

三朝の特産物振興加速化プロジェクト

問 三朝神倉大豆の納豆や豆腐などの既存商品だけでなく、新商品の開発を進めなければ、大豆消費の拡大に繋がらず、利用できない在庫が増加するのではないか。JA、町、県の普及所と更なる連携の強化が必要ではないか。

答 加工品の販売促進、商品開発は、生産部を中心にJA、町、県の普及所で取り組みを進めている。粒の大きさに関係なく大量消費できる味噌等の試作品の開発も検討している。販売促進については、海外への販路拡大等も検討をする。

竹林整備地域活動支援補助金

問 町内全域に整備されないまま荒廃していく竹林が増加している。荒れる速度に対して整備の速度が追いついていないように思えるが、もう少し大規模な取り組み・整備を推進する努力が必要ではないか。

答 放置竹林整備の補助金は、県の支援制度として平成20年から実施している。町としても県の制度が続く限り、竹林整備を進めたい。支援制度の活用について、広く町民に周知を図り、活用を促していきたい。

梨農家への支援

問 梨農家は担い手不足により、農家の数や栽培面積は減少している。新規作物へ支援策を行う一方、梨農家への支援は行われていない。梨農家への梨団地の借地料等の支援など制度を検討すべきではないか。

答 梨農家には収入保険などの助成は行っている。今春の雹被害は一部支援を行った。借地料の減額支援は考えていない。梨農家に限らず、肥料価格高騰対策については検討を進めている。

荒廃農地への対策事業

問 三朝地区の住宅地周辺においても農地の荒廃が進んでいる。荒廃農地は野生動物等による住宅地内の被害拡大や観光地の景観にも悪影響がある。三朝地区の荒廃農地への対策・支援・指導を進めるべきではないか。

答 荒廃農地が増加している状況は把握している。整備されていない農地は、作業受託が敬遠されるため、耕作者の確保が難しい。農地を適切に管理するため、地域の人と話し合いを重ね、活用できる支援を考えていきたい。

常任委員会で慎重審査

委員会における主な質疑

総務教育常任委員会

三朝町がけ地等復旧事業補助金について

問 がけ地等復旧事業補助金の対象はどのような場合か。屋敷全部か。裏山が崩れた場合か。

答 勾配が30度を超え、高さが概ね3m以上のがけ地、急傾斜が崩れた場合である。がけの高さから1.5倍以内に住宅がある場合の補助金。空き家は対象外。

問 山からの土砂の流出は対象になるのか。

答 土砂の流出の場合は、昨年度に土砂撤去補助金を創設し、何件か交付している。

問 災害復旧工事を入札して、その工事は期限内に終わっているのか。または期限までに終わらずに長引いているのか。

答 災害復旧工事については、建設水道課が担当しているが、この補助金は個人が対象。工事の工期等を含めて、調整した上で、補助金を支給している。



災害により壊れたがけ地

危険家屋について

問 危険家屋について、大きな建物、旅館など、町として対策は考えているのか。道路側いっばいに建物が建っている場合など、雪が落ちたり、壁が剥がれるなど危険な状態が続いていると思うが。

答 廃業した旅館等の家屋については、令和2年度に1件、所有者と協議して道路に係る部分は撤去していただいた。他の旅館等においても、所有者に定期的に連絡を取り、周辺に被害が発生している場合は対応してもらっている。

問 三朝の場合は、銀行に差し押さえられた建物と山の上にも廃業した旅館がある。中部地震の時に地割れがあった。今後の安全の為に、対策を考えてほしい。

答 司法の話になる。解決する方法などを学んでいきたい。

介護施設の入所状況について

問 介護施設の入所が可能な状況なのかが大事。三朝町内の施設に入所は、順番待ちで難しい状況だと聞くが。三朝町内に新しい施設を作ろうと思えば出来るのか。

答 特養では、老健に入ったりロングショートとか使いながら入所を待っておられる方がいる。他の町では、新しく施設を作っているところがあるので、倉吉の老健等が空いて、三朝町民が入りやすくなっているのはあると思う。特養は、要介護3以上でないとい入れないので順番待ちの状況がある。新しい施設は、作ってくれる法人がないと難しい。



町内の介護施設（三喜苑）

産業民生常任委員会

固定資産税の大幅減収の理由は

問 前年度比較で現年度の固定資産税の収納が4,654万円の減収となった理由は。

答 コロナ関連の減免があったことと評価替えの年になったことが主な要因である。

三朝温泉広場周辺の開発構想について

問 民間事業者から提案があったとのことだが、町との関わりはどのように考えているのか。

答 民有地だけでなく町有地との関わりもあるので、課題等整理しながら随時状況を報告していく。

農業の新規作物について

問 新規作物として山椒・ブロッコリーを町の中心作物として推進していく考えなのか。

答 農家所得の向上を目的に山椒やブロッコリーの栽培を推奨している。中心作物になるかわからないが、徐々に栽培面積を拡大できればと思っている。

荒廃農地の対応について

問 農業委員会として荒廃農地の所有者にどんな指導をしているのか。

答 農地パトロール等で荒廃農地として確認した場合、所有者に通知し今後の意向について確認を行っている。管理について地域の方と調整したりするが、今後の課題と思っている。



荒廃農地の解消が課題

水道料金の改定時期は

問 水道料金について3年ごとに見直し改定していくとのことだったが、来年度は改定の年になるのか。

答 来年度は本来ならば改定を考慮する年であるが、コロナ禍の影響もあり実施の時期は、今後検討していきたい。

フェイスブック・ツイッター等の情報発信について

問 ホームページで情報が見られるだけでなく、SNS独自でイベント紹介や感想などもっと魅力的な情報発信ができないか。

答 SNS用に独自のコンテンツを作るには時間と労力が必要であり、現在はホームページの情報がSNSでも閲覧できるという状況である。今後改善できるところは検討していきたい。

ジビエの活用について

問 イノシシやシカの肉料理を旅館などでも提供しているところもあるが、有害鳥獣対策としてジビエに利用することはできないか。

答 販売や提供となると適正な処理施設で処理しなければならない。こうしたハードルをクリアできれば活用は可能であり、民間で活用されている事例もあり状況をみていきたい。

林道の現地視察を行いました

昨年7月の豪雨災害をはじめ、度重なる大雨や風雪などにより町内の林道や農免農道などが多数被害を受けていることから、主な林道を現地視察しました。

現地視察では担当課も同行し、災害を受けた復旧現場で進捗状況など説明を受けながら、意見交換を行いました。



一般質問は、議員の日常活動と調査研究、住民の声や自身の考え方をもとに、町長や教育長などの方針を問うものです。

一般質問

あなたの声を 町政に

5人の議員が一般質問をおこないました。

三朝町は、執行部答弁を除き1人20分以内の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。

議会だよりでは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしております。

ページ	質問事項	質問議員
8	1 三朝町保育施設の今後のあり方について	藤井 克孝
9	1 中学校における部活動の地域移行について	山口 博
10	1 ゼロカーボンシティに向けた積極的な取組みを	小椋 泰志
11	1 山間部道路の保全と活用について	松原 成利
12	1 加齢性難聴者の補聴器購入助成について 2 『個別避難計画』について	吉村美穂子

※ケーブルテレビでは、一般質問後の最初の日曜日に、録画放送を行っています。
(10:00～、18:00～)

問 民間活力の導入か、他園と統合か

答 皆さんに理解を求め、一定の方向性を出す

みささこども園の今後の運営について

藤井

今後、みささこども園の運営を再検討される際は、民間活力の導入について検討するのか。

町長

令和2年度に指定管理者の公募を行ったが、経営面での不安、新型コロナウイルス感染症が社会全体に及ぼす影響などにより、民間事業者の参入が叶わず、直営での運営を継続する判断をした。社会情勢をしっかりと把握し、最善の形の保育環境となるように検討を行う。



みささこども園

竹田保育園の存続は

藤井

竹田保育園について、他園と統合する効率的な運営を考えているのか。

町長

竹田保育園の園児数が数年後には今の半以下になってしまう実態が見込まれている。そのような状況の説明を含め、今年6月に保護者会説明会、8月に地域協議会説明会を開催し、皆さんと共に意見交換を進めている段階。

藤井

地域協議会説明会で、いつ頃を目途に閉園されるか問い合わせた結果、令和5年度末を目途に閉園されるという答弁をされた。町長は、三朝町で子育てをしていくことに関して、どのように感じているか。

町長

あり方検討会の時に、竹田保育園をできるだけ継続させたいという気持ちも聞いてきている。保護者の方にもいろんな話を伺っている。継続して意見交換を行いながら方向性を出すのが良いと考えている。



藤井 克孝 議員

地域の子どもたちの笑顔のために

藤井

三朝町は『子育ての町、三朝町』であり、笑顔を忘れない、子どもたちの笑顔を作っていくために、町長がリーダーシップを発揮されるのだと思う。みささこども園に関しても町営で、竹田保育園は地域に密着した保育園を継続し、今後更なる検討をしていただきたい。

町長

保護者や関係者の皆さんと継続して協議を深め、ご意見を伺いながら、安定した保育行政を進めるために一定の方向を出していきたい。



賀茂保育園



竹田保育園

教育

問 中学校の部活の地域移行を
どの様に進めるのか**答** 令和5年度からの3年間をかけて移行準備を進めていく中学校の部活の地域移行について
の保護者アンケート結果は**山口**

小中学校の保護者や教員に部活の地域移行についてアンケート調査を実施されたがその結果は。

教育長

部活の地域移行について、保護者の75.3%、教員の91.6%が賛成と回答している。このアンケート結果は公開して部活の地域移行について町民の皆さんにも考えていただきたいと思う。

中学校の部活の地域移行について
町内スポーツ団体の反応は**山口**

中学校の部活に対応する町内スポーツ団体の地域移行に対する反応は。

教育長

活動の時間帯、指導者の数や技量など大変な困難さを感じておられる。



三朝中学校部活（ソフトテニス部）

受け皿の少ない地方では部活の
地域移行は難しい課題**山口**

受け皿が多くある都会と受け皿が不十分な地方を一律に考える部活の地域移行については無理があると思う。

教育長

全国町村教育長会では、文部科学省関係局、関係国会議員に対し、町村において部活の地域移行は相当困難な取り組みであること、特に中山間地などの町村においては国の支援なくしては実現不可能と伝えた。

中部1市4町を一つの受け
皿として考えては**山口**

部活の地域移行について、県教育委員会と1市4町で地域移行について協議しているが、単独では難しいが1市4町で取り組もうとしているのか。

教育長

中部の中学校の部活数は平均で13程度有るが、総体に単独で参加できず、連合チームで参加している例が見受けられる。三朝中でも野球で東中と組み、サッカーでは河北中と組んで総体に参加した例もある。このような現状を踏まえて地域移行を協議、検討することになる。



山口 博 議員

山口

町単独でチームが組めない現状になると1市4町全体を地域移行の受け皿として考えることが大切と思う。

これから決まる部分が多く
あるが決まり次第情報提供を**山口**

地域移行については未定の部分が多くあるが教育長は今後どのように進めていこうとしているのか。

教育長

具体的な国・県の指針・方針、どのような支援策が有るのか明確になっていないので難しいが、国・県等の動向を見ながらしっかり準備し、実行していきたい。

山口

今回の地域移行計画については保護者も心配な点が多々あると思うので、色々決まり次第きめ細かな情報提供をしながら進めて欲しい。



三朝中学校部活（野球部）

問 ゼロカーボンシティ宣言に向けた積極的な取組みを

答 宣言に向けて前向きに取り組んでいく

早期にゼロカーボンシティ宣言をすべき

小椋

世界、国、地方の流れはゼロカーボンに向けて進んでおり、全国では既に766の自治体が宣言を行っている。早期に宣言を行い取組みを進めるべきではないか。

町長

これまでも環境問題や脱炭素化に向けた取組みを行ってきており三朝町地球温暖化対策実行計画の見直しも指示している。タイミングを見ながら宣言に向けて前向きに取り組んでいきたい。

本町の特徴を活かした取組みとは

小椋

全国の取組事例をみるとその町の特徴を活かした取組みがなされているが、本町の特徴は何か。

町長

町内の自然の資源を利用した水力発電所では水力発電というクリーンエネルギーが供給されている。また、森林資源の活用も本町の特徴だと考えている。



適切な森林整備でゼロカーボン

小椋

以前、旅館の生ごみを分別して堆肥化し食品ロスをなくす取組みをしたが、その考えはないか。

町長

環境と共生するまちづくりの中では食品ロスの問題も重要である。観光だけでなく町ぐるみの推進も必要と考えており以前の教訓も踏まえて慎重に考えていきたい。

J-クレジット制度の活用を

小椋

本町は9割が山林原野であり林野面積では県内4番目の面積を抱えている。適切な森林管理を進めるため国が認証するJ-クレジット制度を活用してはどうか。

町長

持続的な森林管理と地球温暖化防止に貢献する森づくりは重要と考えている。分収造林地などでの本制度の活用に向けて前向きに進めていきたい。



小椋 泰志 議員

中部森林組合との連携は

小椋

ゼロカーボンに向けて町内の森林を活かしていくため、J-クレジット制度の活用などで中部森林組合とも連携していく必要があると考えるがどうか。

町長

中部森林組合と話し合いを進めながら提携を結ぶことも考えている。公有林だけでなく民有林でも条件のいいところから取組みを進めていきたい。

今後のゼロカーボンに向けての思いは

小椋

行政・事業者・町民など含めてオール三朝で取り組むべき必要があると思うが、町長の思いはどうか。

町長

これまで町が取り組んできた森林整備が二酸化炭素削減に貢献してきたことを踏まえ、町の姿勢としてゼロカーボン宣言につなげていきたい。

※ゼロカーボンシティとは

2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを表明した自治体

※J-クレジット制度とは

適切な森林管理による二酸化炭素吸収増加量などを「クレジット」として国が認証する制度

環境

問 山間部道路の保全と活用

答 持続性を持って環境整備したい

山間部道路整備は追い付かないのでは

松原

山間部を通る一般道や林道、遊歩道の維持管理は、お金も手間もかかる事業だが、整備が追い付かないのでは。

町長

町が管理する道路は約88km、山間部町道を含めると117kmに及び、維持管理費も500万円程かかっている。19路線を委託し緊急対応は職員が行っているが、大雨や獣害等もあり対応に苦慮している。

管理の方針、国や県等との連携は

松原

道路整備の年間計画や、国道県道との連携や監視はどのようにしているのか。

町長

大規模林道や地域をつなぐ道路を優先に考えており、お互い協力関係の協働の下、区長さんからの連絡や集落でできる範囲の処置をいただいたり、パトロール等を実施している。



草が茂る夏場の林道

道路わき樹木伐採等の基準は明確か

松原

道路わきの草刈りや覆い茂る樹木の伐採等の作業は、どのような判断基準で行うのか。

建設水道課長

林道町道共に草刈りは毎年、側溝清掃は5年に1回程度行っている。樹木伐採には明確な基準を設けていないが、危険と思われる状況には対応している。

豊かな山林、自然を生かした誘客促進を

松原

財団や銀行等の森を育てる活動や、牛の県営放牧場等もあり、イベントや観光で時には大勢の人が来られるが、自然を楽しんでもらい町内施設への宿泊や利用を促進するべきでは。

町長

ニッセイ緑の財団、三朝温泉かじか蛙保存会、山陰合銀等の皆様に、豊かな自然を生かした取り組みにご協力をいただいている。観光協会では県が進めるサイクリスト支援との連携や、日本遺産を活用した周遊コースの設定とモニターツアーの実施で誘客促進を図っている。



松原 成利 議員

町ぐるみでお迎えし新たな観光資源開発に

松原

わざわざ来られる関係先との連携や町民への情報提供により、町ぐるみでお迎えし新たな観光資源開発につなげるべきでは。

町長

林道や森林整備は町民の皆さんの暮らしにもよいことで、町民活動として谷間をつなぐ林道がきれいにして整備され安心できれば、結果として観光に波及するのではないかと。



俵原地内のニッセイ三朝の森

森を育てる事業に本町も参加できないか

松原

それぞれ団体独自の取り組みで深入りはできない中で、町民の皆さんが関わり合いを持てればよいが、町として一緒に取り組むような提案はできないか。

町長

それぞれの会社の社会貢献活動であり一般の人の参加はどうかと思うが、町としては活動や整備された森の紹介等で活用させていただくのがよいと思う。

問 加齢性難聴者に補聴器購入助成を

答 新年度からの実施に向け制度づくりを検討中

加齢による難聴者に補聴器購入助成を

吉村

障がい認定以外の、聴力40デシベル(40センチ離れて聞こえない)以上の方が補聴器を購入する際、助成する事で「よい聞こえ」を通し健康寿命につながるのではないかと考えています。

町長

来年度からの支援実施について他の自治体を調査中。認知症やフレイル予防にもつながり、家族、友人と楽しくコミュニケーションを取り健康な生活につながると思う。

吉村

補正予算を立て計画から3ヶ月で実施した自治体があるが、もう少し早く実施できないものか。

町長

町民の意見を聞き、助成制度の組み立て、金額、周辺町村との整合性を考え、進めていくには、新年度からが適時と考える。

吉村

国に対して公的助成制度を求めていくのはどうか。

町長

町村共同で国に対して要望を出す事も大事だと思う。



吉村美穂子 議員



耳にかけた補聴器

中でまとめていく中心になる方と全体の合意も重要と考える。

吉村

個別避難計画を立てる上で、理想と現実のギャップの要因に、危機管理部局の人員不足はないか。

町長

十分だとは言えないが、やるべき事をしっかりやっている。住民の皆さんとの共助も必要と思う。

問 個別避難計画の作成を早急に

答 支え愛マップが整った所から速やかに計画を作成する

個別避難計画の現状

吉村

4市15町のうち、本町を含む5町が未策定となっているが本町の進捗状況は。

町長

危機管理部局、福祉担当、包括支援センターなどと連携して進めている。民生委員、消防団、ケアマネジャーなどの協力も不可欠。集落での支え愛マップが避難の実効性を高める上で重要と考える。

吉村

支え愛マップ作りは吉田区が完成しているが、他の集落の現状と、啓蒙はしているのか。

総務課参事

令和2年から令和7年まで作成希望の集落は17集落あった。社協と説明会などを行なっている状況で未だ作成まで進んでいない。

個別避難計画を進める上での課題

吉村

近年頻発する豪雨災害を危惧する中、高齢者、障がい者を守るためにも早く計画を立てるべきだが、進まない課題は何か。

町長

避難の支援を必要とする住民と、支援する住民の相互理解、避難を支援する住民の確保、個人情報管理が課題と考える。集落の



避難誘導

【議案に対する賛否】

議案番号	議案名	議員名（議席順）											結果	
		森貴美子	小椋泰志	河村明浩	吉村美穂子	松原成利	松原茂隆	能見貞明	石田恭二	山口博	藤井克孝	遠藤勝太郎		吉田道明
(7月臨時会)														
町長提出議案名														
47	令和4年度三朝町一般会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
48	令和4年度三朝町国民宿舎事業会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
49	財産の取得について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
(9月定例会)														
町長提出議案名														
50	令和4年度三朝町一般会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
51	令和4年度三朝町国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
52	令和4年度三朝町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
53	令和4年度三朝町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
54	令和4年度三朝町下水道事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
55	令和3年度三朝町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
56 ～ 65	令和3年度三朝町特別会計歳入歳出決算の認定について（10件）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
66	三朝町の議会の議員及び長の選挙における選挙運動用自動車の使用等についての町費負担に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
67	三朝町職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
68	三朝町交通安全指導員の設置等に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
69	工事請負契約の締結について（三徳地区多目的研修会施設改修工事）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
70	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
諮1	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	適任
議員提出議案名														
議7	会計年度任用職員の処遇改善に向けた法改正と雇用安定に関する意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

※○は議案に対する賛成、●は反対等であることを意味しています。

※吉田道明議長を除く11名の賛否状況です。

【陳情】 9月定例会の陳情に対する審査結果です。

件名	提出者	審査結果	審査意見
会計年度任用職員の処遇改善に向けた法改正と雇用安定を求める陳情	自治労鳥取県本部 三朝町職員労働組合	採択 意見書提出	会計年度任用職員の処遇を改善し、安定した行政サービスの維持・向上を図る必要がある。

トライワークみささを通して

私は、5月に三朝町役場で4日間、職業体験学習（トライワークみささ）を行いました。トライワークの活動は、すべてのことが新鮮で楽しい経験でした。

初日、私は町役場にはいろいろな課や係があることを知りました。そして、そこで働いておられる方々は、三朝町を良くするためや、地域の人が安心・安全で暮らせるために、地区の見回りをしたり、生活の情報を発信したりするなど、いろいろな仕事をしておられました。他にも、観光客に喜んでいただけるようなポスターの作成、花だんの草とり、河原

風呂そうじなど、たくさんのお仕事をされていることも知りました。私たちの安心した生活は、このようなたくさんの方の仕事に支えてもらっていると感じました。

私は、トライワークみささを通して、相手に分かりやすく説明すること、進んで手伝えること、縁の下の力持ちの大切さなどを学びました。私は、この学びを普段の生活に活かしていくことで、三朝町をもっともっとよくしていきたいです。



三朝中学校2年
清水 咲良

議会・委員会を傍聴しませんか

議会の審議はみなさんに公開しています。本会議、委員会等での審議がどのように進められているのか、直接ご覧になってみませんか。

どなたでも傍聴できますので、お気軽に役場2階へお越しください。

※常任委員会・全員協議会の傍聴には委員長・議長の許可が必要です。詳しくは議会事務局（電話43-3511）にお問い合わせください。

12月定例会の日程予定（案）

会期 12月8日～12月16日
（9日間）

※日程は変更になる場合があります。
※近づきましたら、防災無線、町ホームページでもお知らせします。

～町のホームページに、議会情報を掲載しています～

- ・町ホームページから **三朝町議会** のページをご覧ください。

町ホームページアドレス <http://www.town.misasa.tottori.jp>

- ・町議会のしくみや議会日程、議員紹介など、さまざまな情報を掲載しています。
- ・議会だよりのバックナンバーも閲覧することができます。

発行責任者
議長 吉田 道明
編集
議会広報常任委員会
委員長 小椋 泰志
副委員長 森 貴美子
委員 松原 茂隆
委員 吉村美穂子
委員 河村 明浩

我が三朝町においても人事ではなく、避けて通れない重要な課題である。行政も議会も喫緊の課題として再認識し、持続可能な町づくりに向けていきたい。
（松原 茂隆 記）

ある社会学者によると、日本は「未婚大国」になっていく。近い将来、男性は三人に一人が、女性は五人に一人が生涯未婚のままという社会が訪れるというところらしい。
では、なぜ若者は結婚をしなくなったのか。
その理由として、経済的な要因、環境的な要因、心理的な要因等々が挙げられているが、いずれにしても未婚化は少子化に直結する重要な問題であり、少子化は社会経済の停滞や崩壊に直結する重大な社会問題である。

